農業分野における地域と一体となった職業人材の育成

北海道音更高等学校　学級数８　（校長　重堂　法人）

１　実践の趣旨

本校は、音更町唯一の高校として、地域で活躍できる人材を輩出することを目標に、スクールミッションでは「積極的に地域社会との繋がりをもち、望ましい勤労観、職業観と社会性を身に付けた生徒の育成」を謳っている。また、平成 29 年に閉科した北海道音更高等学校定時制農業科の伝統を受け継ぎ、地域に貢献できる農業分野での育成を目指し、単位制移行後も 25 単位を超える農業科目を設置するとともに、学校設定科目「地域環境」や「環境デザイン」といった科目を中心に『ランドスケープ（自然環境と人工環境の調和)』を取り入れた特色ある教育を推進している。

２　実践の概要

○　北海道十勝総合振興局産業振興部農務課との連携

本連携では、地域の基幹産業である農業の実態を理解すること及び農業に関わる仕事を将来の選択肢のひとつと考え、十勝で活躍できる人材を輩出することを軸として、１年生 93 名に計３回の授業を展開した。

プレ授業

⑴　第１回　プレ授業　テーマ「農業を知ろう」

【内容】農務課と本別町にある十勝農業改善普及センターの職員が、十勝の農業の概要について説明

⑵　第２回　現地視察研修　テーマ「農業を見てみよう」

【内容】農業への理解を深めるため、本別町にある北海道立農業大学校で講義を受けた後、３クラスに分かれ、実際に農場を経営している農家を視察。

⑶　第３回　出前授業　テーマ「十勝のすばらしさ、農業を通した人とのつながり」

【内容】指導農業士・農業士を講師に招き、農業を通した人とのつながりや、農業で地域を盛り上げる取組、農業を志すきっかけなどについて講演とパネルディスカッションを実施。音更農協の販売するニンジンジュースを例に農業の６次産業化に関する内容の説明。

北海道立農業大学校での講義

パネルディスカッション

農家視察

３　実践の成果について

本事業を受け、本校生徒に「農業への見方が（よい方に）変わったか」という質問をしたところ、２回目の視察研修時にそう答えたのは１～２割程度であったが、３回目終了時では５割程度の生徒が変わったと回答した。農業は、様々な分野の事業が関係していることから、農業が単なる重労働ではないということが具体化できたと考える。

４　実践を終えて

今回初めて十勝総合振興局産業振興部農務課との連携事業を行ったが、地域の実情に触れる貴重な機会となった。農業法人の従業員や農業支援組織等の担い手が減少する中、十勝、ひいては北海道の産業基盤である農業を通して、地元で活躍できる人材を輩出することに注力していきたい。